

|       |                |      |
|-------|----------------|------|
| 方面    | 創立66周年記念行事     | (1面) |
| 1 師団  | 師団重迫撃砲射撃競技会    | (2面) |
| 12 旅団 | 募集関連イベント(冬キャン) | (3面) |
| 1 施設団 | 方面施設科職種合同訓練    | (4面) |
| 関東補処  | 陸士共通訓練         | (4面) |
| 東混団   | 団優秀隊員招待行事      | (5面) |



令和8年3月25日 第1094号

総監統率方針「強靱な東部方面隊の創造」  
総監要望事項「一隅を照らせ」

陸上自衛隊東部方面隊広報紙

発行所：方面総監部広報室  
住所：東京都練馬区大泉学園町  
専用線：8-37-2446

# 方面隊66周年盛大に挙行

方面隊は2月21・22日の両日、朝霞駐屯地等において、伝統を継承するとともに、協力者等の信頼の醸成及び隊員の使命の自覚と士気の高揚を図り、防衛基盤の充実強化に資することを目的として、方面隊創立66周年記念行事を挙行了。

21日は優秀隊員招待行事、方面音楽まつり、歴代総監会同を、22日は総監感謝状贈呈式、祝賀会、食を実施した。優秀隊員表彰式は部外施設において行われ、永年の職務遂行における功績が顕著であった隊員を招待して、その功績を称え表彰した。その後、優秀隊員及びその家族は、

和光市民文化センターサンアセリアで行われた方面音楽まつりの演奏を楽しんだ。(下段参照)歴代総監会同では総監が歴代総監に対し、方面隊の現況を伝えることも参加し、会は盛況裡に終了した。

取して今後の方面隊の施策の資を得た。22日の総監感謝状贈呈式では功績の著しい部外協力者等に対し、総監自ら感謝状を贈呈し、日頃の感謝の意を表した。続いて隊員食堂において東部防衛協会、東部方面懇話会及び東桜会の共催により祝賀会食が実施された。多数の招待者等が参加し、会は盛況裡に終了した。

方面隊は2月21日、和光市民文化センターサンアセリアにおいて、陸上自衛隊及び東部方面隊に対する関心の喚起及び理解の促進を図ることを目的として令和7年度東部方面音楽まつりを実施した。この際、屋外における広報イベント及び陸上自衛隊広報センターにおける特別イベントを連続させ、広報効果の拡大を図った。今回は「SOUND ENERGY for the MISSION」音楽で伝える、使命のカタチとして、東部方面音楽隊、第1師団らっぱ隊、東部方面自衛太鼓(朝霞振武太鼓、松本アルプス太鼓、北草夫玉太鼓)、ゲストとして埼玉県警察音楽隊、カラーカード隊が参加した。公演は2回行われ、合計約2000人が訪れた。



記念会食で行われた鏡開き



部外施設で行われた優秀隊員表彰式



日頃の感謝の意を表した感謝状贈呈式



出演者が大集合したフィナーレ

## 令和7年度東部方面音楽まつり SOUND ENERGY for the MISSION ～音楽で伝える、使命のカタチ～

今回は「SOUND ENERGY for the MISSION」音楽で伝える、使命のカタチとして、東部方面音楽隊、第1師団らっぱ隊、東部方面自衛太鼓(朝霞振武太鼓、松本アルプス太鼓、北草夫玉太鼓)、ゲストとして埼玉県警察音楽隊、カラーカード隊が参加した。公演は2回行われ、合計約2000人が訪れた。

屋外イベント大盛況  
サンアセリアの野外広場では、今回初の試みとして、来場者が隊員へのメッセージをポストイットに記入し掲示するポストイットアートが行われ、多くのメッセージが集まった。装備品展示は自衛隊車両の他、埼玉県警察のパトカーが展示され、人気を博していた。また方面隊の各地方協会の各々が、各キャラクターの紹介の他、記念撮影を行い、来場者を楽しませていた。



人気を博したパトカー展示



ポストイットアートの様子



ゆるキャラ大集合の記念撮影

さらに自衛太鼓による迫力ある太鼓演奏、競歩で世界大会出場の体育学校所属勝木一尉のトークショーが行われるとともに、その他にも戦車射撃シミュレーター体験や迷彩服の体験試着、スタンプリリーなどが行われ、会場は大盛況となった。

## デジタル版あづまのご案内

東部方面隊は今後DX(デジタルトランスフォーメーション)化を進めてまいります。東部方面隊広報紙「あづま」はスマホやパソコンでいつでもどこでも見ることができるデジタル版でご覧になることができますので、是非ご覧ください。



X



instagram



facebook



HP



部隊の名誉と誇りを懸けた初弾を拉縄(りゅうじょう)発射(ひもを引いて発射する射撃)

# 第1師団

## 全ての努力を弾先に結集

### 5個連隊が競う師団重迫撃砲射撃競技会

師団は2月23日から26日までの間、北富士演習場において重迫撃砲射撃競技会を実施した。

師団隷下の第1普通科連隊、第32普通科連隊及び第34普通科連隊に加え、東部方面混成団第31普通科連隊並びに富士教導団普通科教導連隊がオープン参加し、計5個連隊が火力の精度を競い合った。

開会式において統裁官(師団長)は「重迫撃砲(師団長)は「重迫撃砲 闘力に直結する。部隊の名誉を懸け、勝利を追求せよ」と力強く訓示した。

その射撃精度は師団の戦先に集中せよ」「基本基礎の徹底」「安全管理の徹底」の3点を要望し、緊張あふれる競技会が幕を開けた。

競技会中は冷たい雨と厳しい寒さの中で実施された。弾着地域には濃い霧が立ち込み、観測不能により射撃が一時中断される場面もあった。しかし各部隊は動じることなく、射撃分隊、指揮、観

測、通信、測量、兵站の各部署が一体となって状況を克服し、1メートル、1ミルにまでこだわった修正を重ね、緊密な連携のもと高い精度と速度を追求した。まさに日頃の練成の成果を示す火力戦闘であった。結果は僅差で34普通連が優勝した。

閉会式において統裁官は「戦いにおいては結果が全てである。重迫撃砲中隊は最大の火力戦闘部隊としての誇りを堅持し、切磋琢磨しつづける高みを目指せ」と講評し、競技会を締めくくった。

### 平成28年以来9年ぶりの優勝 悲願を達成した34普通連



各連隊の成績は僅差となったが34普通連が、コロナ禍により開催されなかった期間を挟み、平成28年以来となる悲願の優勝を勝ち取った。

優勝を果たした34普通連の増澤2曹(写真①)頭章版を持つ増澤2曹(写真②)は「9年越しに頭章版を連隊に取り戻すことができ、大変うれしく思う。今後とも知識・技能を磨き、後輩を育成し、王者にふさわしい中隊を築いていき、連覇を目指したい」と意気込みを力強く語った。

### 陣地構築能力の徹底練成 首都防衛を支える施設戦力の向上



師団は2月16日から20日までの間、朝霞駐屯地において令和7年度第2回施設合同訓練を第1施設大隊長を担任官として実施した。

本訓練は首都防衛任務を担う師団隷下各部隊の隊員に対し、陣地構築に必要な技能及び実技能力の練成を図るとともに、師団の作戦遂行能力の向上に資することを目的として実施された。

主要演習項目はABE-II型(※)による掩壕構築(写真①)、LPによる掩体構築(設置型)及びクレーン等を使用した重材料の吊上げとし、座学及び実習を通じて効果的かつ効果的に訓練を実施した。

座学では映像及び資料を活用し、首都防衛に係る施設作業の具体的なイメージの醸成を図るとともに、陣地構築(迅速築城等)の重要性及び施設資材・器材に関する知識を付与し、識能の向上を図った。

実習では実際の施設資材・器材を使用し、掩体及び掩壕の構築並びにクレーン等による重材料の吊上げ作業を実施し、実技能力の練成を図った。

### 関係機関と連携し実動対処力を強化

#### NBC災害総合訓練に参加



師団は2月6日、東京消防庁第八消防方面訓練場で行われた令和7年度NBC災害総合訓練に、第1特殊武器防護隊及び第1後方支援連隊衛生隊が参加し、CBRN(化学・生物・放射性物質・核)事態への対処能力の向上と、関係機関との連携強化を図った。

今回は福島第一原子力発電所事故対応から15年の節目を踏まえ、爆発した化学工場から放射性物質や化学薬品による有毒ガスが漏えいし、複数の傷病者が発生したとの想定で実施した。

1特防は現地に指揮所を設け、東京消防庁と情報を共有しながら、状況に応じて有害物質の検知



や除染などの活動を行った(写真②)。

また衛生隊は傷病者の応急処置や搬送を担当した(写真③)。

師団は今後も関係機関との連携を深化するとともに、万が一の事態に迅速かつ的確に対応できるように、CBRN事態対処能力のさらなる向上に努めていく。

### 東京マラソン2026沿道で応援演奏

#### 響け！ 激励の旋律

師団から第1音楽隊が3月1日に開催された東京マラソン2026の公式応援イベント「TOKYO CHER 2026」に参加し、コース沿道となる市ヶ谷駐屯地正門前において応援演奏を実施した。(写真①)

都庁をスタートしたランナーが最初に通過する応援会場を担当した1音

は「楽しんで、いつらっしやい！」をメッセージに掲げ、力強く華やかな演奏を展開。躍動感あふれるサウンドが沿道を包み込み、ランナーと観衆が一体となる熱気あふれる空間を創出した。

走り抜けるランナーへエールを送り続ける隊員たちの演奏は、挑戦する一人ひとりの背中を力強く後押しし、大会の盛会に寄与した。



#### 【※用語解説】

ABE-II型は、H形鋼(鉄骨)と4PCスラブ板(プレレストレストン等)を使用される。

クリート板)を組み合わせた応急対応資材であり、緊急時の構造物補強等に使用される。

第12旅団

# 冬キャンで募集促進 自衛隊の魅力を発信



旅団長による講話



戦闘糧食を味わう学生



オートバイ技術を披露する隊員



地雷探知機を体験する学生

旅団は2月17日、相馬原駐屯地において、募集中の大学生等に対して幹事部自衛官のやりがい、陸

上自衛隊の装備品、活動内容、生活勤務環境を紹介して陸上自衛隊に対する理解を促進するとともに、就職先候補及び高校生へのフォロー施策、入隊後の職種選択の一助を目的として相馬原駐屯地各部隊及び各地方協力本部が合同で実施した。

本行事は駐屯地全域を自由に見学しながら自衛隊の理解を深める要領で実施し、駐屯地体育館において、イベントの全般説明、体力向上プログラムの説明から始まり、旅団長による講話、職種、部隊の紹介をした。各部隊の事務所等では装備品の展示及び職場や居室等の案内し、職種ごとの役割や特色について、実際に使用している装備品を展示しながら解説をする

とともに、生活環境の理解促進を図った。また、司令部付隊は調理したお汁、戦闘糧食のキーマカレーを提供

し、体を温めた参加者の笑顔がさいた昼休みとなった。装備品展示において、第12偵察戦闘大隊のオートバイ的展示で魅了し、第12施設隊は学生たちに装備品の89式地雷探知機模擬地雷による搜索を体験させるなど、各部隊の特性を生かした展示が行われ、募集対象者からは、終始興味津々で、「早く自衛隊に入隊したくなった」「自衛隊がもっと好きになった」と嬉しい声が多数聞かれた。冬キャンにおいては、活発な質問が寄せられるとともに、働き方を具体的にイメージできる内容が将来の進路を考える有意義な機会となり、自衛隊を身近に感じる一日となった。

## 能登半島災害派遣に貢献 石川県知事から感謝状



感謝状を手にする第12後方支援隊長

第12後方支援隊は令和6年能登半島地震に伴う災害派遣に参加し、石川県

8639人、給水31447リットル、巡回診療4件、入浴支援救護12件）を実施した。また、石川県七尾港において民間船（PFI船舶）を活用した宿泊・入浴支援（支援実績宿泊432人、入浴521人）を12後方支援隊長以下48人、車両12両をもって実施し被災地の復旧に貢献した。

その功績により石川県知事から、令和7年12月、12後支に対し感謝状が贈呈された。

## 音を紡ぎ人を紡ぐ 第60回定期演奏会を実施



観客を魅了する第12音楽隊



クラリネットを独奏する南3曹



大いに盛り上がった「マツケンサンバII」

旅団は1月18日、高崎芸術劇場において、陸上自衛隊第12旅団第60回定期演奏会を実施した。演奏会は第12音楽隊の演奏技術の向上を図るとともに、地域住民との交流、来場者に対する自衛隊への信頼感及び防衛意識の醸成並びに自衛隊の募集活動に寄与することを目的として2部構成で行われた。第1部はジュビリー序曲で演奏会の幕を開けた。行進曲「K点を越えて」(「マフリン」)に続き、第2部は「プロローグ・ワゴン」「バック・トゥ・ザ・フューチャー」の映画音楽と昭和歌謡コレクションに続き、音楽隊の歌姫藤嶽3曹が「糸」を披露した。大歓声やむことなく、「美女と野獣」「宝島」の重厚な響きで聴衆を魅了した。アンコールとして三上2曹が登場し、「2億4千万の瞳」「エキゾチック・ジャパン」を熱唱し、最後に「マツケンサンバII」で締めくくった。

演奏会終了後、聴衆者からは「迫力ある演奏に感動しました」「アンコールが楽しめた」「会場が一体となり楽しかった」などの声が聞かれ、旅団演奏会を通じて、訪れた1800人の聴衆を約2時間間の公演で魅了し陸上自衛隊に対する理解と親近感がより一層醸成することができた。また同会場では令和7年度旅団フォトコンテスト

期演奏会を実施した。募集活動に寄与することを目的として2部構成で行われた。第1部はジュビリー序曲で演奏会の幕を開けた。行進曲「K点を越えて」(「マフリン」)に続き、第2部は「プロローグ・ワゴン」「バック・トゥ・ザ・フューチャー」の映画音楽と昭和歌謡コレクションに続き、音楽隊の歌姫藤嶽3曹が「糸」を披露した。大歓声やむことなく、「美女と野獣」「宝島」の重厚な響きで聴衆を魅了した。アンコールとして三上2曹が登場し、「2億4千万の瞳」「エキゾチック・ジャパン」を熱唱し、最後に「マツケンサンバII」で締めくくった。

3曲目の交響詩「ローマの祭り」では、南3曹が見事なクラリネット独奏を披露した。演奏終了後は会場から、割れんばかりの拍手が送られた。

また同会場では令和7年度旅団フォトコンテスト

また同会場では令和7年度旅団フォトコンテスト

また同会場では令和7年度旅団フォトコンテスト

## 第12旅団施策 ゴールドGood Jobカードを授与 隊員の模範となる功績を称える



第5級賞詞の賞状を手にする黒岩曹長

第12旅団司令部第3部黒岩曹長は、ゴールドクックジョブカードを獲得して、旅団長から第5級賞詞を授与された。黒岩曹長は、第3部運用陸曹として、学校等への入校及び基本教育参加に関する要望並びに手続き等に関係各部隊と先行的かつ綿密に調整し、円滑な教育訓練の推進を図り旅団の計画的な人材育成に寄与した。

また、上級格闘指導官及び部隊スキー指導官並びにレンジャー要員として豊富な経験と技能を發揮して旅団司令部付隊及び旅団司令部隊員に対する各種戦技の練度向上に大きく貢献した。これらの功績により、受賞した黒岩曹長は「クックジョブカード施策が平成23年から始まり、ゴールドクックジョブカードを取るまで約15年かかりました。ゴールドの上にはプラチナ、プラチナの上には旭日賞とありますが、旭日賞を目指して日々の業務、部隊の精進強化に寄与していきたいです」と今後の意気込みを語った。

3月から3尉候補者課程（SLC）に入校するにあたり、自身の業務はもちろんだと、訓練幹部の支援を積極的に実施している。

第1施設団

# 方面施設科部隊が集結 幅広い施設技術の向上に寄与

施設団は1月21日から1月23日までの間、古河駐屯地において、方面施設科職種合同訓練を実施した。本訓練は今年度2回目の実施となり、前回実施した滑走路応急復旧を除く、幅広い施設技術に関する課目を方面施設科部隊等に対し普及するとともに、部隊全体の練度向上を図ることを目的として行われた。

参加部隊は施設団隷下部隊、第1施設大隊、第12施設隊、中央即応連隊施設中隊、第1空挺団施設中隊、教育支援施設隊及び第102施設直接支援大隊で、各部隊が訓練に臨んだ。

訓練では、装備品・民品のクラップルを使用した瓦礫除去、水道・電気インフラ補修、道路補修における見張りかき測量・コンクリート打



電気（配線）の補修をする隊員



コンクリートを打設する隊員



完成した遮蔽設備

設、セミトレーラーを活用したビット構築、単管パイプや足場セットを使用した遮蔽設備の構築、さらに民品を活用した防護施設の構築など、多様な課目を実施し、幅広い施設技術の普及と、訓練に参加した隊員から「経験の少ない施設科部隊の技術向上のため合同訓練を活用して普及し、方面施設科部隊の発展に寄与していく。」との声が多かった。

施設団は今後も、方面施設科部隊の技術向上のため合同訓練を活用して普及し、方面施設科部隊の発展に寄与していく。

## 予備自衛官を招集 防衛基盤の醸成に寄与

施設団は2月5日から2月9日までの間、古河駐屯地において、予備自衛官招集訓練を実施した。本訓練は予備自衛官としての資質を養成するとともに、必要な職能の復習を行い、防衛基盤の醸成に寄与することを目的として実施した。

訓練では、担任官である架構中隊長による精神教育をはじめ、防衛法制教育、射撃（分解・結合含む）、格闘、野外衛生、特殊武器防護、警備施設構築訓練、駐屯地等警備訓練など、多岐にわたる課目を実施した。

期間中、予備自衛官64人が訓練に参加し、防衛力の補完のために必要な技能にかかる練度を確認した。

施設団は今後も継続的な訓練を通じて、防衛基盤の充実に努めていく。



格闘訓練の様子



警備訓練の様子

特に防災士の資格取得状況、各種支援体制について紹介があり、相互理解の深化に繋がった。

会議終了後は人命救助システム及び92式浮橋に関する研修を実施し、装備品に対する理解を深めた。

参加した自治体担当者からは「他市町村との情報共有の場は大変ありがたい」「初めて参加したが、非常に参考になった」などの声が寄せられた。

施設団は今後も各自治体との災害派遣活動等に関する情報共有及び意見交換を継続し、連携強化に繋げていく。

## 効果的な准曹士の育成 方面最先任現況把握

関東処は2月12日、霞ヶ浦駐屯地において東部方面最先任上級曹長の現況把握を受けた。

方面最先任の小林准尉は、関東処の前最先任であり、関東処の特性を十分理解する必要がある。また、部隊運用の要となる役割を担っている。特に現場において、即戦力となる能力の育成やリーダーシップを発揮する組織活性化が最も重要である。

関東処は引き続き、最先任間の連携を強化し、准曹士の育成に尽力する。

## 編集後記

桜もほころび始めた今日この頃、東部方面隊所属の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

ご存じの方も多くおられると思いますが、関東補給処は3月23日付をもって改編となり、補給本部隷下の大臣直轄部隊として新しく生まれ変わりました。そのため、広報紙「あづま」を今月をもって卒業します。

生まれ変わったと言っても、与えられた任務は変わらず、全国の部隊の皆様が各地で任務達成できるよう願っています。

今後とも陰ながらではありますが「あづま」を通じてこれからも東部方面隊の皆様のご活躍を応援していきます。

引き続き、大臣直轄部隊になった関東補給処をよろしく願っています。

## 基本基礎の識能向上 陸士共通訓練

関東処は2月3日から6日までの間、霞ヶ浦駐屯地において陸士共通訓練を実施した。

関東処においては共通的な職能として求められる各個戦闘能力や実員指揮能力を発揮する機会が訓練に参加した陸士とも少なく、経験が乏しいのが実情である。

本訓練では基本基礎訓練と称して「戦闘教練」「対特殊武器防護」「通信」「徒步行進」の4課目を演練し、教官・助教の陸士とも訓練に参加した陸士とも

## 米陸軍と技術の共有 落下傘業務実務訓練

関東処松戸支処は2月10日、相模総合補給廠において米陸軍が保有する物料傘及びJPADS（陸自の高度空中投下システムに相当）の管理及び整備要領を研修した。本研修は第11空挺師団隷下部隊（アラスカ）の落下傘整備員が行う落下傘等の整備要領を確認し、落下傘整備に係る識能を向上させること、米陸軍の落下傘整備員と協同して、物料傘等の整備及び収納要領等（写真）を体験し、意見交換を実施して、日米の落下傘整備の近似性を確認することができた。

今後定期的にも実施し、日米の相互理解を図る予定である。



戦闘教練の練度判定



防護マスクの装面訓練



意見交換の様子



自治体に装備品を紹介

本会議は自衛隊と各自提供を実施し、連携強化を図ることを目的として行われた。また古河・霞ヶ浦分区分区情報収集担任部隊と自治体の各防災担当者、分区分内における災害派遣等の認識統一を行い、意見交換や装備品研修を実施した。

自衛隊側からの情報提供では、古河駐屯地所在部隊の概要紹介、施設団の災害対策計画、分区分の災害発生状況及び災害派遣の要件等を紹介した。

自治体側からの情報提供では、自治体の防災に係る取り組みの紹介、

東部方面混成団

# 職務への感謝を込めて 団優秀隊員行事を開催

混成団は2月28日、混成団所属隊員から選出された隊員に対する令和7年度団優秀隊員招待行事を行った。



各部隊長及び受賞隊員とその家族による記念撮影



賞状と記念楯とともに記念撮影を行う井上夫妻

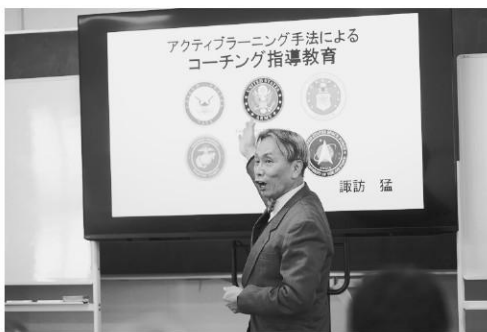
混成団は今後も隊員の士気高揚と家族との絆を大切に、任務遂行に邁進していく。

### 【受賞隊員】

- ◆東部方面混成団本部 准陸尉 井上 大輔
- ◆第3陸曹教育隊 陸曹長 久保 貴弘
- ◆女性自衛官教育隊 准陸尉 中村 新
- ◆第117教育大隊 1等陸曹 濱田 奨二
- ◆第31普通科連隊 即応予備1等陸曹 谷村 博
- ◆第31普通科連隊 即応予備3等陸曹 田中 美樹
- ◆第48普通科連隊 即応予備2等陸曹 関口 優

## 新しい教育法の導入 コーチング指導要領を修得

混成団は2月10日、教育訓練研究本部が実施する、教官要員に対する「コーチング指導教育講話」に参加し、指導要領を学ぶとともに、教育能力の向上を図った。



指導法教育を行う諏訪氏



実践として発表を行う隊員

れ、各参加者は熱心に講話に聞き入っていた。講話だけでなく、グループワークやロールプレイングなど、受講者が能動的に参加できるような形式が取り入れられるとともに、階級、職種、経験など多様な参加者の意見を尊重し、活発な議論の促進が図られるような教育と実技演習となった。

## 教育現場の今を見る 統幕最先任が教育視察

3月3日、統幕幕僚監部最先任上級曹長の齋藤准尉が第3陸曹教育隊を訪れた。



上曹教育を視察する統幕CSM(左)と3曹教CSM(右)

東部方面混成団 公式Xはこちら!

陸上自衛隊【東部方面混成団】公式 @EACB\_takeyama

たくさんのフォローお待ちしています!

東混団・31普通科連隊 インスタ始めました! フォローお待ちしています!

## 総監部人事部募集課 募集ニュース

### 一般曹候補生及び自衛官候補生 入隊予定者フォロー広報

方面隊は1月24日に武山駐屯地、2月14日に朝霞駐屯地、2月21日に入間基地において「一般曹候補生及び自衛官候補生入隊予定者フォロー広報」を実施した。

参加者からは「きつく厳しいだけのイメージは払拭され、春からの生活や授業のカリキュラムのすばらしさを知り、期待が深まった」「簡単なゲームなどにも取り組むチームビルディングを通じて同期の絆・一体感を築くことができた」等、多くの前向きな声を聞くことができた。



生活体験（靴磨き）

先輩隊員との懇談

基本教練体験

生活体験（ベッドメイク）

概要説明

体験喫食

# 曹友会主催 美容セミナーを開催

朝霞駐屯地



受講状況 (女性)

朝霞駐屯地は2月4日、日頃訓練や任務で厳しい環境に晒される自衛官の美容(スキンケア・メイクアップ)の悩み解決に際して、大手化粧品事業者の協力のもと、曹友会主催による「美容セミナー」を実施した。当日は、隊員26人(女性18人、男性8人)が参加し、女性・男性に分かれ、スキンケア、フチエック、スキンケア、ヘアメイク、ポイントメイクの実習を中心に2時間を超えるセミナーであった。



所持品検査の様子

## 情報隊 KE26における情報隊の取り組み

参加した隊員は、男女問わずスキンケアの実践や身だしなみに対する意識も高く、健康的な肌と端正な身だしなみで好印象を維持し、自衛官が生

息生きと輝く姿に関心をもち、スキンケアの実践や身だしなみに対する意識も高く、健康的な肌と端正な身だしなみで好印象を維持し、自衛官が生

息生きと輝く姿に関心をもち、スキンケアの実践や身だしなみに対する意識も高く、健康的な肌と端正な身だしなみで好印象を維持し、自衛官が生

息生きと輝く姿に関心をもち、スキンケアの実践や身だしなみに対する意識も高く、健康的な肌と端正な身だしなみで好印象を維持し、自衛官が生

息生きと輝く姿に関心をもち、スキンケアの実践や身だしなみに対する意識も高く、健康的な肌と端正な身だしなみで好印象を維持し、自衛官が生

息生きと輝く姿に関心をもち、スキンケアの実践や身だしなみに対する意識も高く、健康的な肌と端正な身だしなみで好印象を維持し、自衛官が生

息生きと輝く姿に関心をもち、スキンケアの実践や身だしなみに対する意識も高く、健康的な肌と端正な身だしなみで好印象を維持し、自衛官が生

息生きと輝く姿に関心をもち、スキンケアの実践や身だしなみに対する意識も高く、健康的な肌と端正な身だしなみで好印象を維持し、自衛官が生

息生きと輝く姿に関心をもち、スキンケアの実践や身だしなみに対する意識も高く、健康的な肌と端正な身だしなみで好印象を維持し、自衛官が生

息生きと輝く姿に関心をもち、スキンケアの実践や身だしなみに対する意識も高く、健康的な肌と端正な身だしなみで好印象を維持し、自衛官が生

息生きと輝く姿に関心をもち、スキンケアの実践や身だしなみに対する意識も高く、健康的な肌と端正な身だしなみで好印象を維持し、自衛官が生

息生きと輝く姿に関心をもち、スキンケアの実践や身だしなみに対する意識も高く、健康的な肌と端正な身だしなみで好印象を維持し、自衛官が生

息生きと輝く姿に関心をもち、スキンケアの実践や身だしなみに対する意識も高く、健康的な肌と端正な身だしなみで好印象を維持し、自衛官が生

息生きと輝く姿に関心をもち、スキンケアの実践や身だしなみに対する意識も高く、健康的な肌と端正な身だしなみで好印象を維持し、自衛官が生

息生きと輝く姿に関心をもち、スキンケアの実践や身だしなみに対する意識も高く、健康的な肌と端正な身だしなみで好印象を維持し、自衛官が生



射撃準備

第2高射特科群第337高射中隊は2月26日から3月1日までの間、古河駐屯地及び航空自衛隊入間基地において、令和7年度第3次方面隊訓練検閲を受閲した。本訓練検閲は方面隊が

## 2高群 レジリエンス向上を重視し 方面隊訓練検閲を受閲

首都防衛任務に基づく部隊の行動について群を横断し、教育訓練の成果を評価・判定するとともに、作戦遂行能力を向上させることを目的として行われた。中隊はレジリエンス向上(強靱性・抗堪性・任務の継続)を重視して数次にわたる訓練を実施し、段階的に練度を向上させ、万全の態勢を整えて本検閲に臨んだ。この際レジリエンス向上においては、ブルーシート及び単管パイプ等を活用して首都圏

の特性に応じた欺騙及び偽器材の作成を実施し、企図の秘匿を図るとともに、一部の器材においてはネットを活用した防護処置を実施し、自爆型ドローンによる被害の局限を図った。本訓練検閲において中隊は、群長要望事項である一疾風に勁草を知る一を胸に困難な状況においても任務達成に邁進し、首都政経中枢等を対空掩護し得る練度にあるとの評価を受けた。第337高射中隊は本訓練検閲の成果を、今後の教育訓練の資とする。東部方面隊の創造に寄与するため、日々の訓練に邁進する所存である。



整備実習用航空機 (AH-1S) と航空野整備隊

## 航空隊 整備実習用航空機受け入れ 次代の翼を育てる礎へ

東部方面航空隊は年1月28日、第4対戦車ヘリコプター隊において活躍し、用途廃止となった対戦車ヘリコプター(AH-1S/444号機)の受け入れを実施した。長年、わが国の対機甲戦闘の主軸を担ってきた同機の受け入れは、今後「整備実習用航空機」として新たな任務に就くこととなる。受け入れ後の管理を担当する航空野整備隊であり、同隊は創隊以来、AH-1Sの高段階整備を一手に引き受けてきた

歴史がある。通常、用途廃止機は廃棄処分、あるいは教材・展示機となるのが通例であるが、今回は整備員の更なる技術向上を目的として、整備実習用航空機としての活用が決定された。受け入れに当たり整備の中核を担う石坂2曹は、「数々の任務を完遂してきた444号機の重みを肌で感じる。その構造の隅々までを後輩たちに伝え、技術を骨の髄まで叩き込むことが、この機体に対する最大の敬意だと考えている」と語った。また駒村3曹は「退役してもなお、私たちの師として存在してくれることに感謝したい」と話した。

## 特科連隊 連隊訓練検閲に向け 東富士で実射練成

東部方面特科連隊は1月21日から23日までの間、東富士演習場において、令和7年度連隊実射練成を実施した。火力戦闘要領等について具体化するともに、令和8年度予定されている連隊訓練検閲に向けた準備の促進を図ることを目的とし、主要演習項目を「実射における速度・精度の向上」「シナリオに基づく特科部隊の射撃」と



射撃要求をする前進観測班

「実射における速度・精度の向上」「シナリオに基づく特科部隊の射撃」と

「実射における速度・精度の向上」「シナリオに基づく特科部隊の射撃」と

「実射における速度・精度の向上」「シナリオに基づく特科部隊の射撃」と

「実射における速度・精度の向上」「シナリオに基づく特科部隊の射撃」と



新隊員前期教育支援助教として

## 訓練所感

東部方面システム通信群 吉野 貴耶 3等陸曹

私は9月から12月までの約4カ月間、東部方面混成団で実施された新隊員前期教育の支援助教として参加した。教育準備間は支援助教として新隊員が円滑に教育を受けられるよう生活面を整え、また自身の知識と技能を磨き教育の準備を行った。入隊直後の新隊員は、規律ある生活や慣れない環境に不安を抱える者も多く、体調管理や時間管理において指導を要する場面が見受けられた。その

基礎的体力のない隊員に四苦八苦したが、第117教育大隊第327中隊の理念でもある「皆で足並みを揃える」を実践し、一人が苦しんでいるのであれば、先に進む者は立ち止まり助け合う。新隊員達には優秀をつけるのではなく、同期同士で背中を預けられる協調性を養えるよう指導した。服務指導面においては、営内班長として新隊員一人一人の成長を間近で感じるとともに、指導の難しさを学んだ。私自身、部隊でも営内班長を勤めているが、前期・後期と終え土台があるから班員達はあまり手が掛からない。教育隊では民間人から自衛官に育て上げる難しさを痛感した。本教育通じて学んだ知識・技術、経験を今後も生かし、また、今後支援助教に行く後輩隊員に申し送りを実施して、部隊に貢献していきたい。

### 千葉地本

## 未来世代に伝える自衛隊のお仕事 カンドゥー幕張でオープニングイベント

自衛隊千葉地方協力本部は12月19日、カンドゥー幕張において、自衛隊の職業体験ブースのオープニングイベントに参加した。



お仕事体験の様子

本取り組みは、子供たちが仕事体験を楽しめる「テマパーク」カンドゥー」において、自衛隊の役割や活動を分かりやすく知ってもらう場として企画されたものである。

当日は関係者を招いたオープニングイベントが行われ、開会にあたり、本部長から本取り組みに対する期待や、次世代に向けた職業理解の重要性について述べるとともに、自衛隊の仕事が「国を守る」ことにとどまらず、人々の暮らしを支える幅広い役割を担っている点についても触れ、新

### 静岡地本

## 陸海空自衛官が講義 防災行政論の一環で



自衛隊静岡地方協力本部は2月6日、常葉大学静岡草薙キャンパスで第34普通科連隊とともに講義を行った。これは自衛隊の活動や災害対策などを学ぶ防災行政論の一環

で、社会環境学部109人が受講した。まず本部長が自衛隊の災害派遣活動の流れや国際的な防衛体制について解説した。またパイロットとして参加した能登半島地震での活動など、現場で体験した生の声を伝えた。

34普通科連隊長は県内の災害派遣を担任する同連隊の概要や実際に連隊が活動を行った熱海市土砂災害について写真や資料を用いて説明した。また同大学卒業生の隊員が自衛隊に入隊したきっかけ

学生からは「自治体と市民と自衛隊、それぞれの特徴を把握することが災害時の迅速な対応に繋がることが知れた」といった声が上がった。静岡地本は今後も自衛隊の活動を知ってもらえるよう広報活動を行っていく。



装備品展示



「りく」とチアリーダーとの記念撮影

来場者は「1月の足利のホームゲームでも自衛隊のブースに来ました」「りく君がとっても可愛いのので一緒に写真が撮れてうれしい」と笑顔で話していた。

今回のアクティビティを通じ、職場体験という身近な切り口から自衛隊の活動を知ってもらおうことの有効性が改めて確認できた。

千葉地方協力本部は今後もこのような機会を通じて、次世代に向けた広報活動を図っていく。

### 栃木地本

## バレーボールの試合でPR プロチームとの連携強化

自衛隊栃木地方協力本部は2月21日・22日の両日、ブルックスアリーナ宇都宮で開催されたプロバレーボールチームのホームゲームにおいて広報展を実施した。

当日は天候に恵まれ、

レイヴィス栃木対つくばユナイテッドの試合が行われることもあり、多くの来場者が訪れた。自衛隊ブースでは自衛隊説明コーナーを設け、1/2tトラック及びF-4縦横の展示、栃木地本キヤクター「りく」によ

るグリーティングなどを行った。また、レイヴィス栃木とコラボしたタオルハンカチや缶バッジの限定配布は人気を博し、多くの来場者へ自衛隊のPRをすることができた。

### 埼玉地本

## 高工校受験予定者に 個別の課題に即した面接指導

自衛隊埼玉地方協力本部熊谷地域事務所は令和7年12月27日、陸上自衛隊高等工科学校の受験予定者4人に対し、模擬面接を実施した。当初、試験に至るまでのプロセスと面接対策の具体的な手

順を網羅的に説明した。続いて、広報官による模擬面接では、昨年入校した高等工科学生が先輩

達のためにと駆け付け緊張を解きほぐす丁寧な対話をしつつ、個別の課題に即した具体的な面接指導を行った。終始和やかな雰囲気のもと、本番の臨場感を共有しながら反復練習を重ねたことで、受験予定者はそれぞれの弱点を克服し、受験に向けて万全な準備を整えることができた。

自衛隊埼玉地方協力本部は今後も部員一丸となり、募集広報イベントや面接指導等の交流を通じて自衛隊の魅力を伝える志願者の拡大を図っていく。

自衛隊新潟地方協力本部は1月17日、美咲合同庁舎（新潟市）において行われた第11飛行隊長江尻2空佐による特別講演

特別講演会は「困難な任務を乗り越えるために」という演題で行われ、隊長の自己紹介に始まりブルーインパルのスの任務や役割、機体の特徴や操作方法など丁寧に分かりやすく説明された。来場者は普段聞くことができない貴重な話の数々に興味深そうに目を輝かせていた。

また普段の訓練で気を付けている点など安全上の観点や、チームワークを保つ秘訣も披露されると来場者はうなずいたりメモを取る姿も見られた。特別講演会終了後には希望者約150人に対しサイン会が行われ、江尻隊長が一人一人丁寧に応じていた。また講演会を聴講した来場者からは「非常にわかりやすく為になった」「今を以上ブルーインパルのことを知ることができた」との感想があった。

自衛隊群馬地方協力本部は1月31日、自衛隊入隊・入校予定者の母親等を対象とした懇談会を開催した。これは入隊・入校を控えた母親に対して

不安や疑問の払拭のほか、ママ友同士のコミュニケーション構築及び家族としてのフォローの仕方について情報交換を目的に企画したものである。当日は15人が参加し、本部長、家族会会長等による自衛隊の勤務環境説明のほか、先輩保護者の経験談や入隊前の準備・入隊後の生活について意見交換をした。保護者同士の

座談会では「運動部の経験がないですが大丈夫ですか」「振込口座は何にすればよいですか」など活発に意見交換がなされ、同じ立場の母親同士が連携を深めた。参加者からは「子供が教えてくれたので、助かりました」とさみしくなるが、同じ立場のママ友ができて心強いです」など、子どもの立ちを前に感想を述べた。

### ある！ある！自衛隊



模擬面接の様子

受験予定者からは初めは緊張したが、繰り返しの練習することで次第にリラックス



第11飛行隊長による講演

講演は、自衛隊の活動や災害対策などを学ぶ防災行政論の一環で、社会環境学部109人が受講した。



本部長による説明

説明は、先輩保護者の経験談や入隊前の準備・入隊後の生活について意見交換をした。保護者同士の座談会では「運動部の経験がないですが大丈夫ですか」など活発に意見交換がなされ、同じ立場の母親同士が連携を深めた。

